

南河内普及だより



富田林市・河内長野市・松原市・羽曳野市・藤井寺市・大阪狭山市・太子町・河南町・千早赤阪村

小ぎくの出荷期間を拡大する時間差ピンチ

一般にぎくは開花期間が短いため、出荷が集中してしまいます。小ぎく専作の大規模農家であれば、開花時期の異なる多くの品種を用いて長期間販売が可能ですが、小規模農家では多くの品種を揃えられないので、少ない品種を長く開花させる技術が求められます。

7月～8月咲きの小ぎくでは、一定の生育期間で開花する性質があることから、品種によっては、ピンチ（摘芯）をずらすこと（時間差ピンチ）により出荷期間を拡大することができます。

農の普及課では、平成 26 年度に試験ほを設置して出荷期間の拡大が可能かどうか、以下の4つの条件で試験を行いました。



▲試験ほ場にて



▲可憐に咲く小ぎく

<条件>

- ① ピンチなし
- ② さし芽苗ピンチ
- ③ 定植後7～10日後ピンチ
- ④ ③のピンチ後2～3週間後ピンチ（2回ピンチ）

これにより、7月咲き品種はピンチの時間差により、7月上旬から8月中旬まで出荷することができました。

一方、今回試験した8月咲き品種では、ピンチの効果は1週間程度、あるいは認められないという結果になりました。

また、7月咲き品種の品質を調査したところ、④の2回ピンチでは、切り花のボリュームが小さくなってしまいましたが、試験を行った農家からは「仏花の組み花に使える」との声もありました。

今後も農の普及課では、直売用切り花の出荷期間を簡易に拡大できる技術の普及に取り組んでいきます。

電気さくを設置されている皆さまへ

「電気さく」は、田畑や牧場などで、高圧の電流による電気刺激によって、野獣の侵入や家畜の脱出を防止する「さく」のことです。

設置にあたっては、人に対する危険防止のため、電気事業法に基づき、

- ①危険である旨の表示
- ②電気さく用電源装置の使用
- ③漏電遮断器の設置
- ④専用の開閉器（スイッチ）の設置

を行う必要があります。電気さく施設の安全確保のため、適切に利用いただきますようお願いいたします。



南河内女性農業者紹介シリーズ

その② 一生の仕事として心に決めた農業に やっとの思いで取り組む

～羽曳野市 北野 阿貴 (きたの あき) さん～

北野阿貴さんは、今年、羽曳野市で新規就農しました。大学生のときにファームステイをして、農業に魅力を感じた北野さんは、農業を一生の仕事にすることを決めました。

10年会社勤めをして資金を貯めてから、大阪府の農業大学校に入学し、そこで農業の栽培や経営の基礎を2年間学びました。卒業後、羽曳野市碓井に農地を借りることができ、現在約10aで野菜の露地栽培をしています。栽培した野菜は、レストランに契約販売したり、直売所やマルシェなどで販売したりしています。

北野さんは、農業を生業としていくため、同年代の会社勤めをしている人と同程度の稼ぎを得ることを目標にしています。

今後は、いちじく栽培やハウスを建てて軟弱野菜の栽培にも取り組みたいと規模拡大や新品目の栽培にも積極的です。ずっとやりたかった農業をすることができ、失敗は多いけれども、何をするのも楽しいと語っています。



▲北野 阿貴さん

翠王(すいおう)ってなんですか？

～葉と葉柄を食べるさつまいもの品種：すいおうの普及に向けて～

「さつまいものつる」は、昔から食べられており、好きな方もおられると思います。

翠王(すいおう)は、国の研究機関が2004年に品種登録した、いもの部分ではなく、葉と葉柄(葉の軸の部分)を食べる専用のさつまいもの品種です。

農の普及課では、河内長野市と連携し「すいおう」の試験ほを設置、河内長野市農業研修講座の卒業生3名の方が栽培に取り組みました。

地域で初めての栽培のため、荷姿や販売価格など、みんなで話し合っていました。

また、栽培者のアイデアで、葉を味噌汁に入れたり、葉柄は甘辛く煮たり炒めたり等の調理も行い、直売所で配布できるようミニレシピを作成しました。

レシピをもとに、あすかてくるで河内長野店の協力を得て、2品の試食販売も行い、試食した人の多くから「美味しい！」という声が聞かれ、年配の方ばかりでなく、子どもや若いファミリー層からも好評を得ました。

直売所で品薄となる夏場の葉もの野菜として有望な「すいおう」。夏の日差しにも負けず、みずみずしく育った緑鮮やかで栄養豊富な野菜を、ぜひ一度手にとって、食べてみてください。



▲すいおうの調理例
きんぴら風



▲現地での検討の様子



▲畑での「すいおう」